【別紙】

令和６年度学校自己評価及び学校関係者評価表

学校名：武蔵村山市立小中一貫校村山学園　　統括校長名：井内　潔

【経営理念】

施設一体型小中一貫校の特色を生かし、多くの人との関わりの中で様々なコミュニケーションの場を通じて自立した一人の人間としての「人間力」を育成する学校を目指す。

（１）義務教育９年間での系統的・継続的な指導を見通して、人間力の育成を図る学校

（２）施設一体型の特色を生かし、「理想とする中学校卒業時の生徒像」の具現化に向け、小・中学校教員の「指導観の一貫」を目指す学校

（３）地域・家庭との協働により、コミュニティ・スクールとして信頼される学校

評価	
A	十分に達成している。（80%以上）
B	概ね達成している。（60%以上）
C	あまり十分でない。（40%以上）

【学校運営協議会・会長　羽鳥　直美】

学校運営協議会（学校評価分）

第１回　　令和６年７月１２日（金）

第２回　　令和６年１１月２１日（木）

第３回　　令和７年２月１４日（金）

項目	計画・取組			自己評価（令和７年２月２０日現在）				学校関係者評価	
	重点目標	具体的取組	評価指標・目標値	到達度（%）	評価	分析コメント	今後の改善方策	意見	評価
確かな学力の向上	全児童・生徒の基礎的・基本的な学力の確実な定着と学力向上	タブレットＰＣなどの ICT 機器を有効活用するとともに、デジタル教科書やデジタル教材を効果的に活用する。	タブレットＰＣの活用により学力の向上を実感したと回答した児童・生徒の割合が８０％以上	１０３	A	各教科等の学習で教員が意図的に活用する活動を設定していることにより、児童・生徒の肯定的回答割合が高いと考える。	校内研究等を活用して、タブレット PC を教員、児童・生徒が学習の道具として当たり前に活用できる取組を推進する。	・書字に困難さがある児童・生徒がタブレット PC の使用により学習に向き合えている。	A
		各教科の学習において、問題練習を行う時間を設定し、問題に繰り返し取り組む。	【全校共通】市学力調査にて、（小５・中２）の平均正答率が同一学習集団の前年度値（小４・中１時）以上	小国１０６ 小算８９ 中国９４ 中数８７ 小平均９７ 中平均９０ 小中平均９４	A	評価はＡであるが、以前として基礎的・基本的な学力の定着には課題がある。	授業において、読み・書き・計算の習熟を徹底する。問題演習の時間を授業内で設定して、繰り返し取り組ませる。	・家庭学習の習慣付けについては動機付けをどうするかが課題になると感じる。	A
豊かな心の育成	人権尊重教育に基づいた、いじめ防止	児童・生徒の生活指導上の情報共有を図るとともに、いじめ防止策を講じ、いじめの早期発見、早期対応を行う。	学校に安心して登校している児童・生徒及び安心して登校させられると回答した保護者の割合が９０％以上	９７	A	いじめの未然防止、早期発見、早期対応が行えている結果であると考える。ふれあいアンケート以外にもアンケートを実施して、早期発見に取り組んでいる。	これまでの取組を継続して実施するとともに、全校連絡会等で適宜、管理職がいじめ防止策について教員に指導していく。	・児童・生徒に対する細やかな配慮があっての到達度である。日々、教員が対応している姿を見かける。	A
	生命を尊重する心を育む道徳教育の推進	道徳科の学習において、内容項目 D「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」の指導を重視して実施する。	動植物など生命ある物を大切にしていると回答した児童・生徒の割合が９０％以上	１０５	A	年間指導計画に基づいた道徳の授業を実施し、確実に生命尊重について指導している結果であると考える。	今後も道徳の授業において、生命尊重を重視して、指導にあたる。また、観察池や水槽などでの生物飼育により、校内の環境整備も進めて日常的に生物に触れられるようにする。	・校内で畑や花壇で野菜や植物を育てている様子をよく見る。生命・自然等に関わることができるように指導されていると感じる。	A
健やかな体の育成	進んで運動しようとする意識の醸成	休み時間等の外遊びを奨励し、遊びの中で身体を動かす機会をつくる。	進んで運動しようとしている児童・生徒の割合８０％以上	１００	A	児童に比べて、生徒の肯定的回答割合低い結果であった。	全校朝会で身体を動かすことの良さを伝えるなどして、生徒会体育の時間以外にも身体を動かすよう促していく。	・より外遊びをする児童が増えるとよい。	A
	児童・生徒の体力の向上	なわとび週間や持久走週間、持久走記録会、大縄大会などの取組を行い、運動習慣の確立を図る。	【全校共通】全国体力・運動能力、運動習慣等調査（小５・中２）において総合評価「C」以上の割合が６０％以上、または総合評価「C」以上の割合が令和５年度調査との比較で向上	１２０	A	体力向上を図る取組が機能的に活用できている。	児童・生徒がより意識を高めて、各運動に取り組むことができるように取組の充実を図る。	・大縄大会は、体力以外にも育てることができる取組であり、その意味でもよい。	A
まちづくり学習充実	武蔵村山市や地域に愛着をもち、市の発展や課題について考え、問題解決に向けて取り組む児童・生徒の育成	各学年が実施する学習において、武蔵村山市の特長などについて気が付かせ、新聞などにまとめる。また、やってみかんパニーの活動を通じて、市内のみかん農家などとの関りを深め、武蔵村山市の特産についての理解を深める。	【全校共通】学校評価アンケートの「学校は『まちづくり学習』を通して、自ら課題を設定して解決への見通しを考えたり、考えたことを発表したりする学習を推進している。」の項目について、肯定的回答が７０％以上	１０８	A	総合的な学習の時間等の学習ややってみかんパニーでの取組を通じて、児童・生徒が武蔵村山市についての理解を深めることができた結果であると考える。	これまでのまちづくり学習の成果を課題を的確に捉え、より効果的な学習となるように計画していく。また、地域人材を活用した学習活動が実施できるように市役所の関係各課とも連携を行っていく。	・児童・生徒が育ったまちに誇りがもてるように支えていきたい。 ・より地域の人材を活用して、市の産業や特産などについて一緒に学習していけるとよい。	A
学校裁量	講師や地域人材を活用した学習の推進	授業において地域人材を活用し、学習支援に当たることで、基礎的・基本的な学力の定着を図る。	課題解決に向けて、有効に講師や地域人材の活用が図れたと感じる教員の割合が８０％以上	１０７	A	学校運営協議会委員により読み聞かせや、家庭科（ミシンの支援）、国語（書き初めの支援）、学年行事等での地域人材の活用が効果的に行えていた。	これまでの取組を継続できるように働き掛けるとともに、学校運営協議会などを活用して、新たな人材の発掘を進める。	・地域の方が支援に入るときには、学校としてどのように活用したいのかを伝えて、調整していくとよい。 ・家庭科のミシンや書写の学習に関わり、児童の変化の様子が見られてよい機会になった。	A
	学校からの情報発信による家庭・地域との連携	学校だより、学年だより、学級だより及びホームページや X を活用し、計画的に学校の情報を発信する。	学校の情報発信に満足していると回答した保護者の割合が９０％以上	９７	A	日々の教育活動を発信することに努めていた結果であると考える。高齢者など SNS を利用していない方に対する情報発信が課題である。	これまでの取組を継続していく。地域の方々への情報発信については、自治会などとも相談して検討していく。	・発信された情報を無駄にしないようにしたい。 ・学校の情報を地域の方により広めていけるとよい。	A

※　到達度＝　達成値／目標値